

【別紙2】

大阪市立木津学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付・加算配付】実施報告書

- ・ 「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙調査」では、自己肯定的な回答が多く、自尊感情や規範意識についても肯定的な回答が高い割合を示している。また、生徒は落ち着いた環境で学校生活を送ることができており、どの教科の授業においても、私語もほとんどなく安定した状態で受けているが、同調査の「教科（国語・数学）に関する調査」では、平均正答率は、残念ながら大阪市の平均を下回った。これは、日本語が十分に理解できていない来日・帰国生徒の増加や、小学校段階での基礎学力が定着していないためと考察できる。しかし、経年での比較を行うと、現中3生が昨年（中学2年時）に受験したチャレンジテストでは、大阪府との比較ポイント（本校生徒の平均得点／大阪府全体の平均点）は、国 0.93 社 0.73 数 0.73 理 0.84 英 0.94 であったが、今年度の対府比較は、国 0.90 社 0.87 数 0.84 理 0.92 英 0.94 と、国語は下回ったものの全体的に上昇傾向が見られた。ちなみに昨年度の3年生チャレンジテストにおける対府比較ポイントは国 0.90 社 0.70 数 0.69 理 0.80 英 0.74 であり、今年度の3年生が大きく上回る結果となった。また、2学期に実施された大阪市統一テストにおいては、対市比較すると国 0.98 社 0.89 数 0.87 理 0.93 英 0.97 と、すべての教科において上昇傾向が見られた。このことから、本校で取組んでいる日々の学習をはじめ、習熟度別少人数授業の取り組みや水曜日に設定している補充学習、放課後の個別指導を粘り強く丁寧に行っていることが、基礎学力の定着に効果を表してきていると考えられる。また、以前から取り組んでいる音読・言語力や四則計算、理論的思考能力の育成が、少しづつではあるが効果が出てきていると考えられる。
- ・ 不登校や教室に入りにくい生徒に対して粘り強くカウンセリングを実施するなどの対応を行っている。また、欠席の続いている生徒に対しては、学習内容を補充するために放課後学習会等の取り組みを行っている。
- ・ 中国、フィリピン、韓国・朝鮮、タイ、トルコ等からの来日・外国籍の生徒が多数在籍しており日本語がまだまだ理解できていない生徒が多く、これらの生徒を日本語教室や識字教室への橋渡しをすること、地域関係諸機関との結びつきを構築して日本での生活が安定するよう、全教職員が関わり合いを持って関係づくりをしている。
- ・ 生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図り、校内における規範意識や自尊・他尊感情の向上に努めている。また、定期的に校内・校外での生徒の情報交換会を実施して、問題のある生徒の実態把握に努めている。
- ・ 道徳心・社会性の育成に関しては、生徒・保護者アンケートで「あいさつ」「規範意識」に関する肯定的回答が昨年同様非常に高い。授業規律が確立した上で学校生活が送られている。「正しい言葉づかい」「時間を守る」でも肯定的回答が昨年以上であった。生徒の行事への参加意欲も高く達成感・成就感も高い。生徒の自主性を重んじ安心した学校生活が送れるよう今後も取り組みを継続する。
- ・ 健康体力の保持増進に関しては、生徒アンケートで「清掃への取り組み」「体や健康についての学習」に対する肯定的回答が昨年同様9割以上である。体育の授業や行事にも生徒は熱心に取り組み、体力の向上・増進に一定の成果が表れている。